

# キアンコウ（地方名：アンコウ）



## 生態

- 年齢・成長：1.5歳で全長25～29cm、2.5歳で45cm前後になると推定されます。雌は100cmを超えますが、雄は最大で70cm程度です。
- 成熟・産卵：雄が全長43cm前後、雌が68cm前後で成熟し、福島県沖では4～6月頃に産卵すると推定されます。
- 分布・移動：福島県沖では主に水深50～200mに分布し、産卵期に水深30m付近まで接岸します。
- 食性：魚類、イカ・タコ類

## 漁獲の動向

主に底びき網漁業や固定式刺し網漁業によって漁獲されます。震災前の漁獲量は300～400トン前後で推移していました。震災後は平成24年から操業が再開され、平成29年以降の漁獲量は年間100トンを超えています。令和4年の漁獲量は362トン、漁獲金額は100百万円でした。震災後は操業海域が福島県沖のみであるにも関わらず、直近2年間の漁獲量は震災前年（平成22年）を超えています。

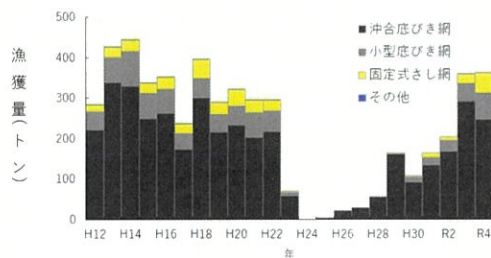


図1 キアンコウの年別漁業種類別漁獲量

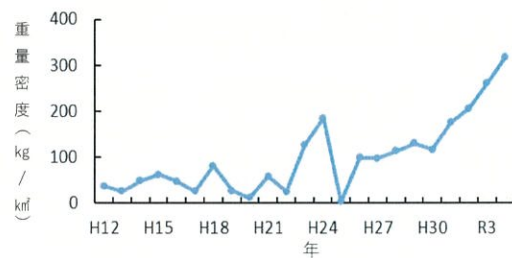


図3 調査船調査におけるキアンコウの重量密度

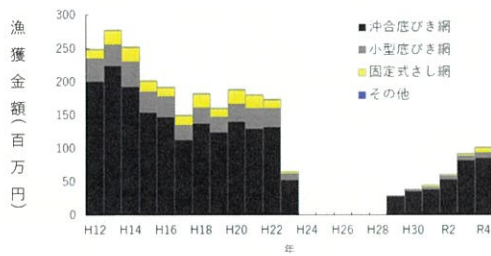


図2 キアンコウの年別漁業種類別漁獲金額  
H24～29年は相対取引のため漁獲金額データなし

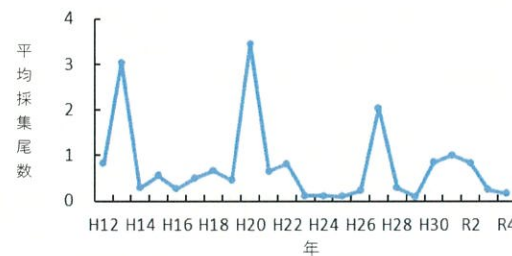


図4 調査船調査における曳網1回当たりのキアンコウの小型個体(500g未満)の平均採集量

## 資源の状態

○国の令和4年度資源評価結果では、太平洋北部系群の資源水準・動向は高位・増加でした。

○調査船調査の結果では、震災後、キアンコウの資源は増加し、高い資源水準が維持されていると考えられています。

資源の水準：高位  
資源の動向：増加

## 現在実施されている管理策

国が実施する資源回復計画に基づき、4～6月に禁漁区が設定され、漁業法改正後も同様の管理策が引き続き行われています。

## 今後考えられる管理策

小型魚の再放流や小型魚の多い海域の季節的禁漁が考えられます。